

2021年9月22日 全7頁

# 新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2021/9/22号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 鈴木 雄大郎

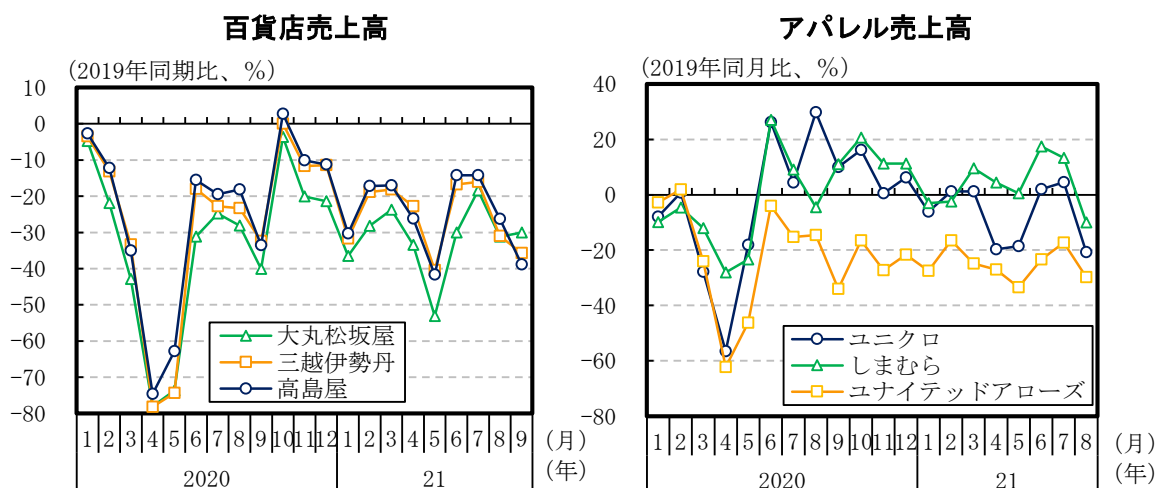
## [要約]

- 9月前半の消費は8月からおおむね横ばいで推移したとみられる。財消費は業種によってまちまちであった。緊急事態宣言（以下、宣言）の延長に伴い、百貨店などは客数の減少が響いたものの、大手家電量販店やコンビニエンスストアは前月から増加した。他方、サービス関連は宣言の延長を受け低調に推移したとみられる。小売店・娯楽施設の人出を見ると、9月前半は8月からおおむね横ばいで推移している。7月から8月半ばまで急増した新型コロナウイルス新規感染者数は8月下旬から減少傾向にあるものの、自粛傾向が続いている。
- 【小売関連】9月前半の大手百貨店の既存店売上高の伸び率は2019年同期比で3~4割減程度と1社は横ばい、2社はマイナス幅が拡大した。また、スーパーマーケットは前月平均比▲0.6%、ドラッグストアは同▲2.9%、ホームセンターは同▲2.2%と前月から減少した。他方、大手家電量販店の売上高は同+17.1%と大幅に増加した。五輪前の駆け込み需要の反動で大幅に減少していたテレビや、天候不順で落ち込んでいたエアコンの販売が回復した。コンビニエンスストアは同+3.4%となった。10月に増税を控えるたばこの駆け込み需要が発現した。
- 【サービス関連】8月の新幹線輸送量は2019年同期比7割減程度と7月からマイナス幅が拡大した。感染拡大を受け、移動を自粛する傾向が強まったようだ。9月上旬の東海道新幹線の輸送量は8月から横ばいである。9月第1週のNEXCO3社と本州四国連絡橋の交通量（前年比）は8月平均と比べ、おおむね横ばいであった。また、8月の飲食店情報閲覧数は前月から大幅に減少した。9月第1週は8月の週平均を上回るも、3度目の宣言期間である4、5月の1週間平均並みと低水準にある。

## <小売関連>

- ◆【百貨店】 大手3社の9月前半の既存店売上高伸び率は新型コロナウイルス感染症拡大前である2019年同期比で見ると、3~4割減程度と8月から1社は横ばい、2社はマイナス幅が拡大。感染拡大による休業等を要請されてはいないものの、緊急事態宣言（以下、宣言）の影響もあって客数が減少。
- ◆【アパレル】 8月のアパレル各社の既存店売上高伸び率（2019年同月比）は前月から低下。低い気温や大雨などの天候不順に加え、感染拡大による客数の減少が響く。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。2021年9月は15日まで。

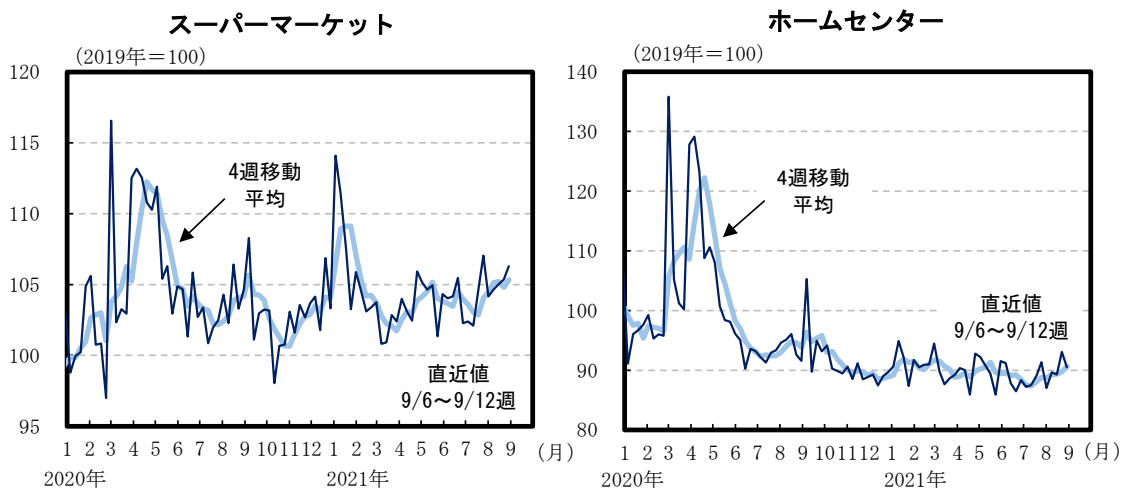
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】 9月前半の売上高は前月平均比▲0.6%（大和総研による季節調整値）。飲料が好調も雑貨やヘルスケア関連が全体を押し下げ。
- ◆【ホームセンター】 9月前半の売上高は前月平均比▲2.2%（大和総研による季節調整値）。食品が押し下げるも、均せば底打ちの兆しが見られる。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

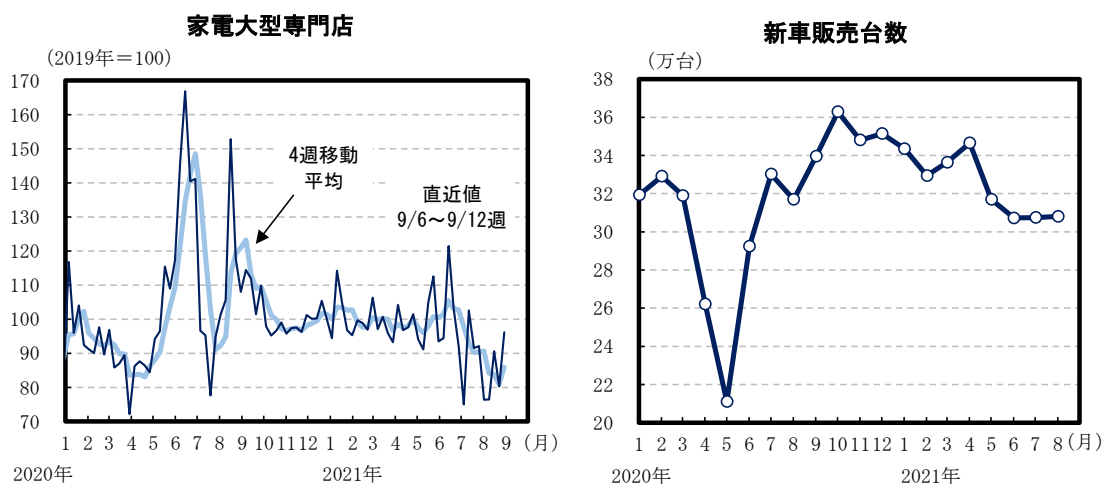


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】 9月前半の大手家電量販店の売上高は前月平均比+17.1%（大和総研による季節調整値）。五輪前の駆け込み需要の反動で大幅に減少していたテレビや天候不順で落ち込んでいたエアコンの販売が回復。ただし水準は低い。
- ◆【自動車】 8月の新車販売台数は7月からほぼ横ばいの前月比+0.2%（大和総研による季節調整値）と低調。半導体不足や東南アジアにおける工場停止の影響が響く。

図表3：家電・自動車の売上高



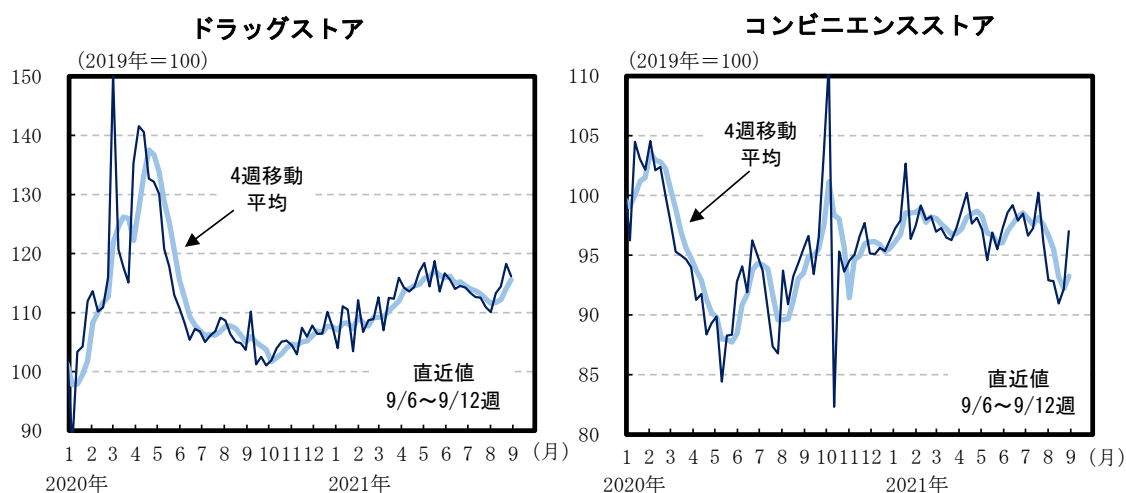
(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

- ◆【ドラッグストア】 9月前半の売上高は前月平均比▲2.9%（大和総研による季節調整値）。食品やヘルスケアが押し下げも、均せば8月上旬を底に回復傾向。
- ◆【コンビニエンスストア】 9月前半の売上高は前月平均比+3.4%（大和総研による季節調整値）。飲料などに加え、10月に増税を控えるたばこの駆け込み需要による販売増が全体を押し上げ。

図表4：ドラッグストア・コンビニエンスストアの売上高



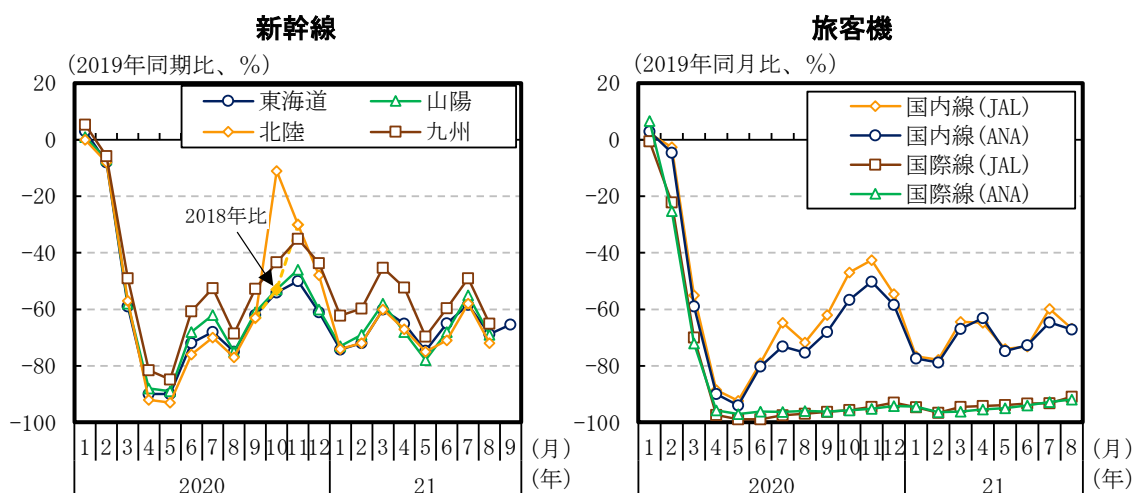
(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

## <サービス関連>

- ◆【**新幹線**】8月の輸送量は、2019年同期比7割減程度と7月からマイナス幅が拡大。9月上旬の東海道新幹線の輸送量は8月からおおむね横ばい。宣言地域の拡大を受け、県をまたぐ移動が自粛されたとみられる。
- ◆【**旅客機**】8月の輸送量は、国内線は2019年同月比7割減程度と7月からマイナス幅が拡大。宣言地域の拡大の影響で、長距離の移動を自粛する傾向が強まった。

図表5：新幹線・旅客機の利用状況



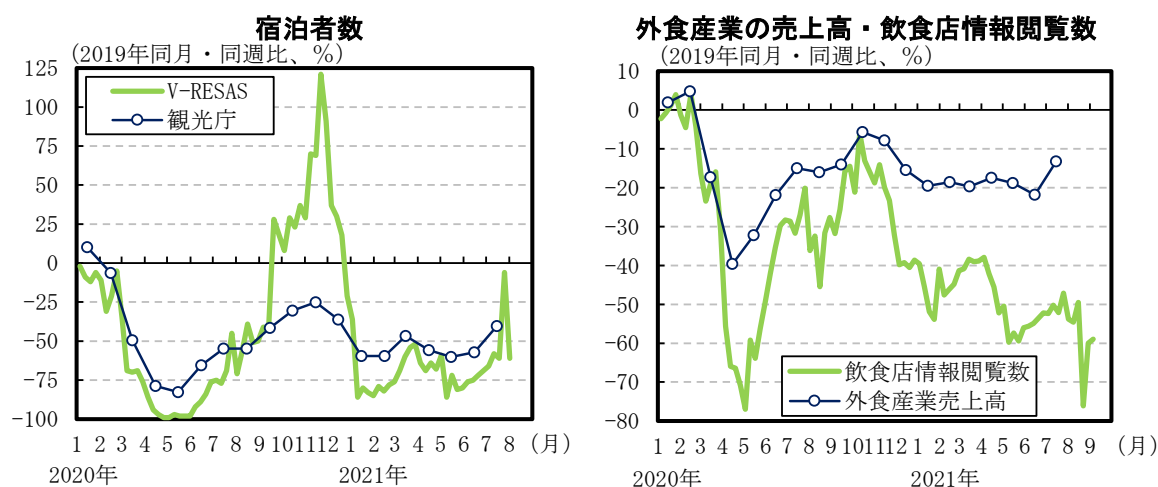
(注1) 新幹線の2021年9月の東海道は7日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【**宿泊**】7月の宿泊者数(宿泊日数ベース)は2019年同月比4割減程度と6月からマイナス幅が縮小。4連休で宿泊需要が増加したとみられる。
- ◆【**外食**】7月の外食産業の売上高伸び率は2019年同月比1割減程度と前月から改善。8月の飲食店情報閲覧数は感染拡大を受け、前月から大幅に減少。9月第1週は8月の週平均を上回るも、3度目の宣言期間である4、5月の1週間平均並みと低水準。

図表6：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



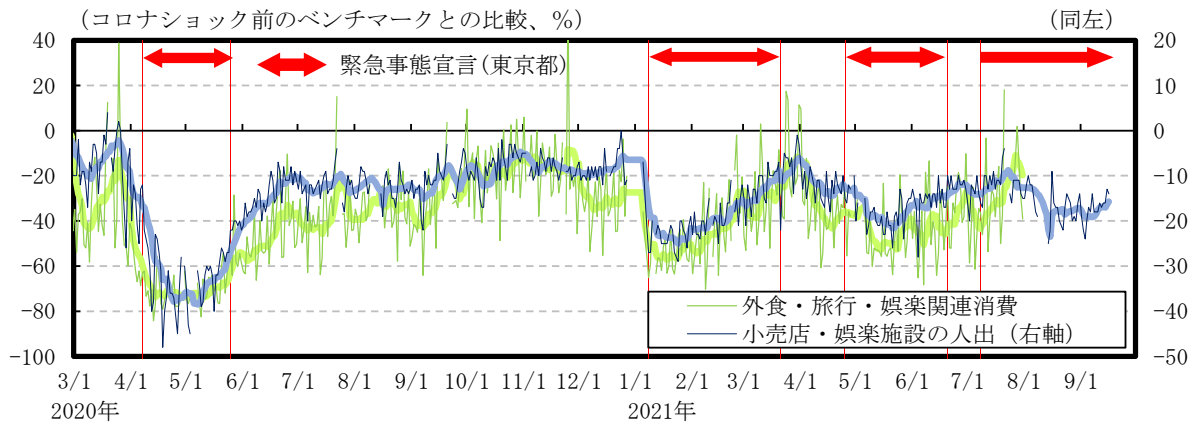
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESASより大和総研作成

## <参考：人出・高速道路交通量>

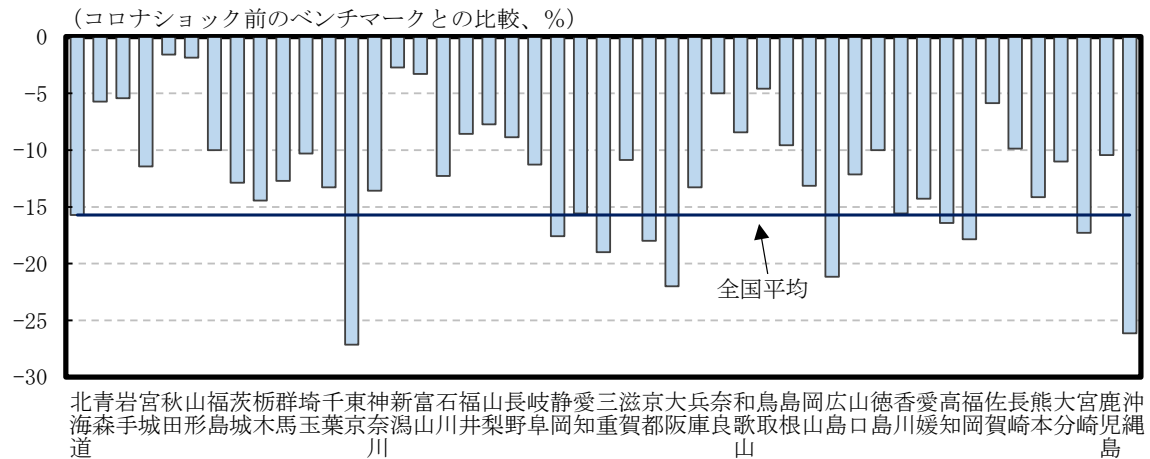
### 図表 7-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 9/16）と外食・旅行・娯楽関連消費



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。  
月～金曜日の祝日とお盆、年末年始のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

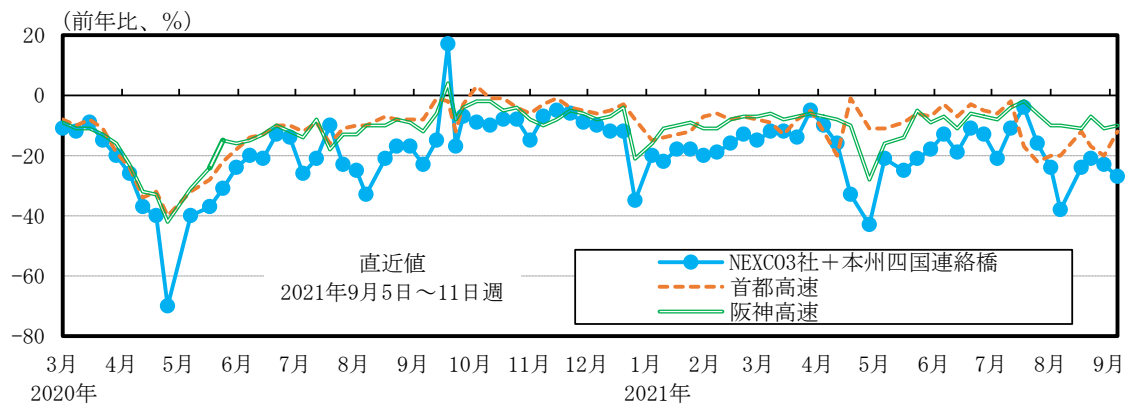
### 図表 7-2：小売店・娯楽施設の人出（9/10～9/16 平均、都道府県別）



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

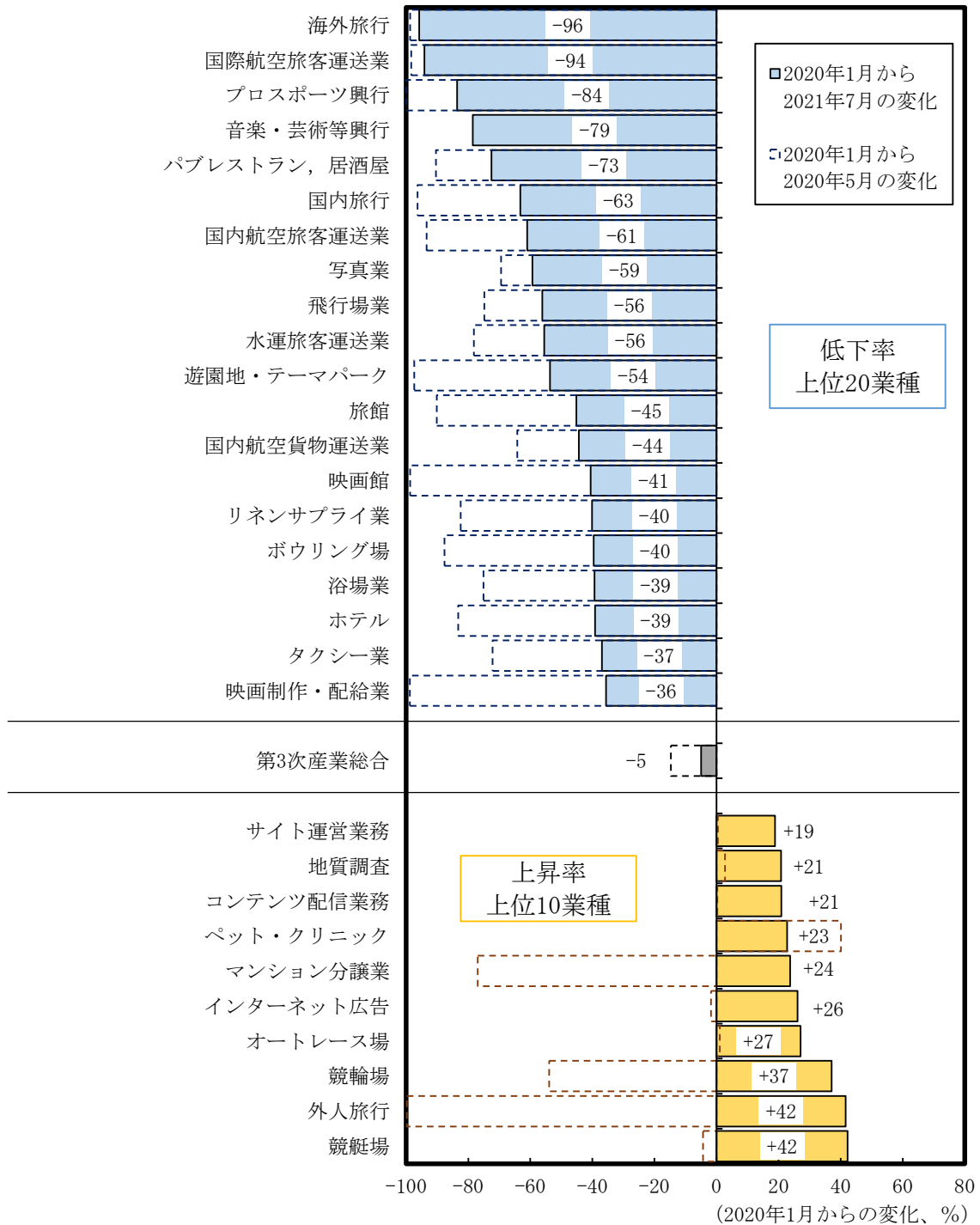
### 図表 8：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成

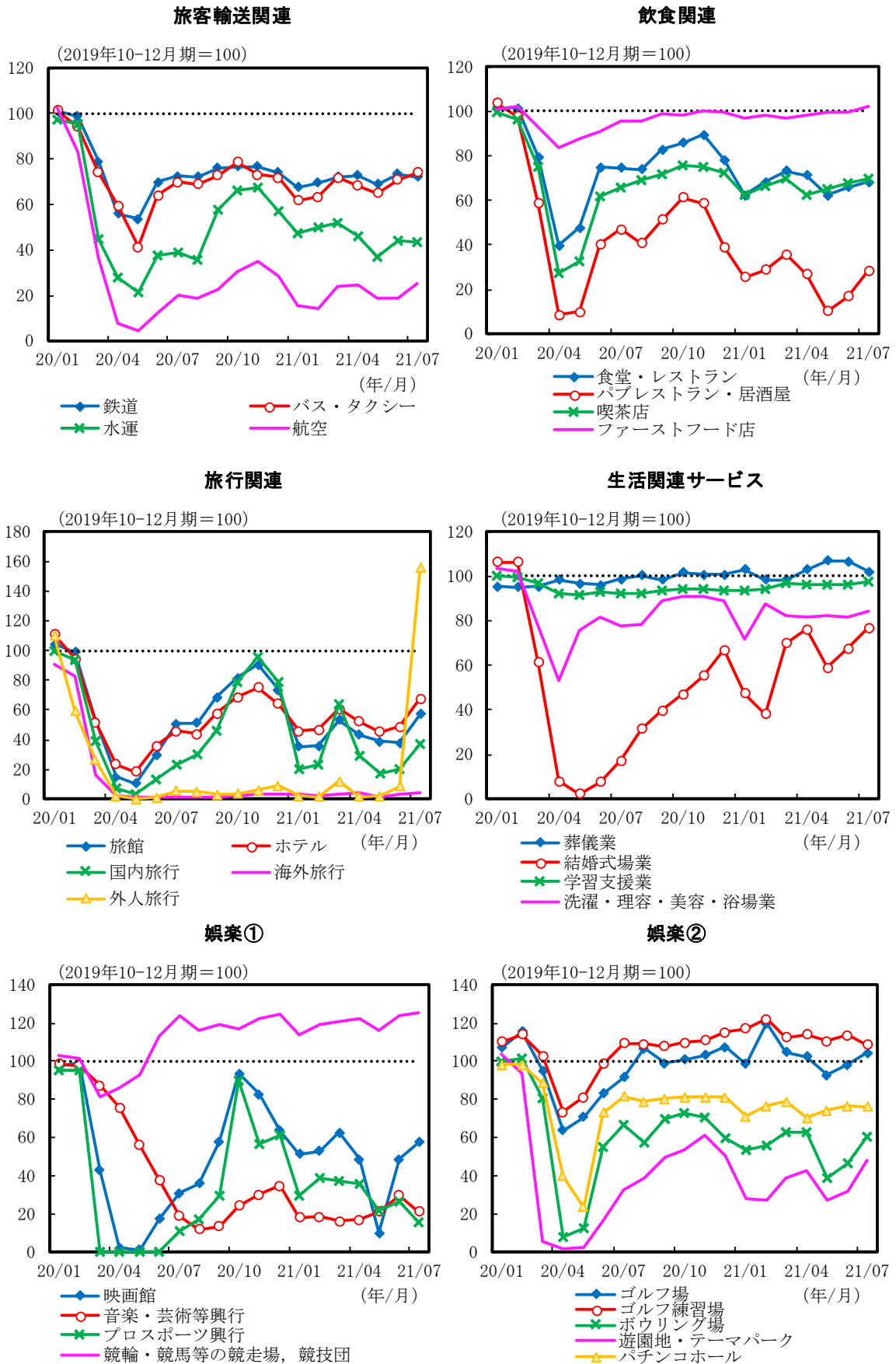
図表 9-1 : 第 3 次産業活動指数 (2021 年 7 月)



(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2021年7月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 9-2：運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成